

香川高等専門学校 平成27年度 年度計画・実績報告

S:年度計画を十分に履行している
 A:年度計画をほぼ履行している
 B:年度計画を十分に履行していない
 C:年度計画を履行していない

香川高等専門学校		
平成27年度 年度計画	平成27年度 実績報告	自己評価
独立行政法人国立高等専門学校機構の平成27年度の業務運営に関する計画に基づき、香川高等専門学校(以下「香川高専」という。)における平成27年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。		
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置		
1 教育に関する事項		
(1) 入学者の確保		
① (a)各中学校が実施する高校説明会に参加するとともに、後援会と連携して入学案内配布等の広報活動を進める。	① (a)48中学校の高校説明会に参加し、学校説明を行った。	A
① (b)教員・在校生による出身中学校訪問を実施し、香川高専をPRする。	① (b)教員9名が出身中学校を訪問し、学校説明を、在校生91名が出身中学校を訪問し、近況報告と学校説明を行った。	S
① (c)地域との連携を深め、小学中学生と保護者や一般市民を対象にしたイベントに参加して香川高専をPRする。小中学生向け公開講座や地域連携に係る各種イベント等を開催して積極的な広報活動を行う。	① (c)建設環境工学科主催で小中学生親子対象の土木施設見学バスツアーを開催、73名の参加があった。 地域との連携を深め、小学中学生と保護者や一般市民を対象にしたイベントに参加して香川高専をPRした。 小中学生向け公開講座や地域連携に係る各種イベント等を開催して積極的な広報活動を行った。	A
① (d)学習塾を訪問して、塾講師に香川高専の学生募集説明を実施する。	① (d)27学習塾を訪問し、塾講師に学校説明、学生募集説明を行い、関係資料を配布した。	A
① (e)入学者選抜学力検査のマークシート方式導入について、中学生への周知を行う。	① (e)香川県内及び近隣県中学校119校に対し、学校案内・学生募集要項にチラシを同封、本校HPに掲載し、周知を行った。	A
① (f)高専のモノづくりに関するPRを行い、将来の入学生確保を目的とし、NHKロボコンに出場したロボット等を用いて小学校・幼稚園を訪問しロボット教室を開催する。	① (f)高専のモノづくりに関するPRを行い、将来の入学生確保を目的とし、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテストに出場したロボット等を用いて小・中学校を訪問しロボット教室を開催した。	A
② (a)入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパスを複数回開催する。	② (a)高松キャンパス、詫間キャンパス、徳島、岡山、倉敷の5会場で入学者募集説明会を開催した。また、香川、徳島、愛媛、岡山県内の8地区で地区別学校説明会を開催した。体験入学を実施した(3回)。オープンキャンパスを実施した(両キャンパス各2回)。	A
② (b)「高専女子百科Jr(香川高専版)」冊子、「高専キラキラガール」冊子、「高専女子技術者キャリアデザイン」冊子を用いて、女子中学生対象の説明会やHPの女子中学生向けページを充実させる。	② (b)「高専女子百科Jr(香川高専版)」冊子を中学校・中学生に配布した。「高専キラキラガール」冊子を中学校・中学生に配布した。オープンキャンパスに女子学生コーナーを設けた。	A
③ (a)入学案内を作成し、中学生やその保護者に配布するとともに、中学生向け香川高専Webコンテンツを充実させる。	③ (a)入学案内、学校案内2016を作成し、オープンキャンパスや地区別学校説明会等で中学生やその保護者に配布した。入学案内、学校案内をHPに掲載した。	A
③ (b)入試の情報発信に、香川高専HP、公共施設展示スペース等を活用する。	③ (b)学校HPに学生募集関連行事及び募集資料を掲載し、随時更新している。香川県立図書館への広告等掲示を行った。	A
③ (c)高専機構の作成した広報資料を有効に活用する。	③ (c)「キラキラ高専ガール」を入学者募集説明会、体験入学、オープンキャンパス、中学校訪問で配布した。高専広報映像「21世紀のエンジニアを目指す、進化する高専」を地区別学校説明会等で放映した。国立高等専門学校機構マンガで伝えるエンジニアの姿実施委員会が作成した「エンジニア物語」を中学校の進路指導教諭を対象とした進路説明会で配布した。	S
④ (a)募集要項の記述を見直し、志願者に正確な情報を伝える。	④ (a)志願者及び中学校教員に正確な情報となるよう、募集要項の記述を見直した。	A
④ (b)入学者の追跡調査を実施し、学力選抜方法を検討する	④ (b)入学者の進級・原級等の追跡調査を行い、その結果を分析し、改組を計画している平成30年度入試の学力選抜方法を検討した。	A
⑤ (a)入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパス等を通じて高専の良さをアピールする。	⑤ (a)入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパス等を通じて高専の良さをアピールした。	A
⑤ (b)オープンキャンパスにおいて、各学科の女子学生が女性目線の学科紹介や入学後のキャンパスライフ等について中学生や保護者向けに説明する女子学生コーナを設ける。	⑤ (b)オープンキャンパスで女子学生コーナーを開設した。	A
⑤ (c)岡山・愛媛・徳島地区で学校説明会、入学者募集説明会を行い、入学志願者を確保する。	⑤ (c)岡山・徳島地区で入学説明会を行った。岡山・徳島・愛媛地区で学校説明会を行った。	A

平成27年度 年度計画	平成27年度 実績報告	自己評価	
⑤ (d)整備計画に基づき、女子学生の修学環境改善のため女子トイレ・女子更衣室・女子寮の整備を推進する。また、女子寮の整備計画を策定する。	⑤ (d) 管理部及び一般教育棟女子トイレの一部改修を実施した。女子学生寮の整備計画は策定途中である。	A	
(2)教育課程の編成等 ①-1(a)本科は、高度化再編の統合設置計画における第五年次履行期間を終了し、平成28年度の機関別認証評価とJABEE継続審査を受審するための準備を行いながら各学科の教育環境・内容の充実を図る。 ①-1(b)地域性を踏まえて、学科や専攻科の将来構想を策定し、教育研究の個性化、活性化、高度化のために改組再編の要否検討を継続する。 ①-1(c)専攻科の現状分析を行ない充実を図る方策を検討する。	(2)教育課程の編成等 ①-1(a) 平成28年度に機関別認証評価を受審するための準備を行い、各学科の教育環境・内容の充実を図った。平成27年度にJABEE継続審査(電子情報工学コース)を受審し、各学科の教育環境・内容の充実を図った。学位授与の特例認定への対応を考慮して専攻科教育課程を見直し、各専攻の教育環境・内容の充実を図った。平成28年度機関別認証評価受審に向け、教育の改善状況を確認しつつ、自己評価書の作成及び資料の整理を進めた。 ①-1(b) 教務委員会・入学試験委員会・入学者獲得対策委員会及び平成27年度に新たに設置した新学科設置委員会の合同委員会を開催し、改組(平成30年度)計画を進めている。 ①-1(c) 平成27年度修了生に適用された特例認定による学位申請を実施し、全ての申請者に学位が授与された。平成28年度受審の機関別認証評価、ならびに平成29年度以降に受審の認定専攻科における教育の実施状況等の調査に向けて、教育課程等の現状分析を行った。教育内容の充実のため、授業科目の廃止・新設を申請し、科目履修規定を見直した。	A	A
①-2 校長が中国・四国地区ブロック校長会議の主査となり、イニシアティブをとる。	①-2 校長が中国・四国地区ブロック校長会議の主査となり、第4(中国・四国)ブロックの協働共有推進計画の取り纏めを行った。	A	A
② (a)低学年における基幹的な科目の教育課程について継続的に到達度を把握し、「数学」、「物理」については、「学習到達度試験」過去問を授業に反映させる取組など、試験結果を重視した学力向上及び教育内容の改善措置を講じていく。また化学について、四国共通試験を実施する。 ② (b)「英語」については、技術者として必要とされる英語力の涵養のため、1～3年生へはTOEIC BridgeやGTECを、4年生にはTOEIC IP等の外部試験を受験させる。外部試験の結果を分析し、それをもとに教育内容の改善に努める。	② (a)数学・物理・英語などの低学年における基幹的な科目の学力の達成度を把握するよう努力した。数学・物理に関しては、過去問を授業に反映させ、プリント等を利用して、学力向上に努めた。また、化学について、四国共通試験を1月に実施した。 ② (b)「英語」については、高松キャンパスでは専攻科1年生(全員)と本科1～5年生・専攻科2年生(希望者)に対し、詫間キャンパスでは4年生と専攻科1年生に、TOEIC IPを実施した。低学年に、TOEIC BridgeやGTECを実施した。それらの結果を踏まえ、多読と精読を組み合わせた授業を展開する改善を行った。GTECやTOEIC IPにおいてスコア平均が上がった。	A	A
③ 通年の座学において、授業評価アンケートを全科目前期・後期の2回実施する。前期のアンケート結果を踏まえ、後期授業にフィードバックできているかを後期のアンケートにより、全教員が確認する。実験実習系科目においては、授業評価アンケートを前期に実施し、実習・実験内容の改善・充実に資する。	③ 通年の座学において、授業評価アンケートを全科目前期に実施した。高松キャンパスでは、クラスで対話を行い学生・教員双方が対話報告書を提出した。前期のアンケート結果を踏まえ、後期に授業改善を行い、後期のアンケートにより、全教員が確認した。	S	S
④ 「全国高等専門学校体育大会」、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校デザインコンペティション」、「全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストに積極的に学生を派遣し、香川高専のPRに繋がるような優秀な成績を挙げられるよう、学生の課外活動意欲向上となる支援措置を講じ、関連学科においても働きかけも行う。	④ 高専ロボコン2015四国大会において詫間キャンパス「Force(フォース)」が優勝、高松キャンパス「Beehive(ビーハイヴ)」が技術賞を受賞し全国大会出場。高松キャンパス「Beehive(ビーハイヴ)」が高専ロボコン2015全国大会で準優勝、詫間キャンパス「Force(フォース)」が特別賞を受賞した。全国高等専門学校デザインコンペティション(高専デザコン)に本校から機械工学科と建設環境工学科の2チームが構造デザイン部門に出場した。全国高等専門学校第26回プログラミングコンテストに両キャンパスから課題部門、自由部門及び競技部門に参加し、課題部門では両キャンパス敢闘賞を受賞、自由部門では詫間キャンパスの「Canvas」が特別賞を受賞、競技部門では高松キャンパスのチームが3位に入賞した。Microsoftが主催するImagine Cup2015に、昨年度全国高専プログラミングコンテスト自由部門で最優秀賞を受賞した詫間キャンパスのチームが日本代表として世界大会に参加した。また、3月に同メンバが独立行政法人国立高等専門学校機構平成27年度理事長特別表彰を受けた。	S	S
⑤ 現在実施している社会奉仕活動や自然体験活動に、より多くの学生が参加できる体制の整備について引き続き検討し、参加意欲の向上のため、社会貢献に資する活動は積極的に全学に向けて紹介する。	⑤ 学校周辺の除草作業や清掃活動を実施した。	A	A
(3)優れた教員の確保 ① 多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないように、関係団体等を通じて教員の募集活動を行い、高度な実務能力を持つ人材の発掘に努める。	③ 優れた教員の確保 ① JREC、関係学会誌への公募情報の掲載を通じ、高度な実務能力を持つ人材の発掘に努め、平成27年度において9件の教員公募を行った。	A	A
② (a)長岡、豊橋の両技科大との相互の連携をはかるため、両校主催の交流会へ参加するとともに、人事交流制度への候補者の選考を行う。	② (a) 選考を行い、平成28年度、豊橋技科大との人事交流候補者を決定し、派遣することを取りまとめた。	A	
② (b)四国地区高専間の教員人事交流を積極的に推進するため、校長会議で運用を協議し、引き続き交流を行う。	② (b) 平成27年度、新居浜高専との間で人事交流を行った。平成28年度からは、同校との間で、同居支援プログラムによる人事交流を行うことを協議し、引き続き、人事交流者として派遣することを取りまとめた。	A	A
③ 専門科目については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者を、採用時の条件とする。	③ 専門科目については、博士の学位を持つ者(取得見込みの者を含む)、一般科目については、修士以上の学位を持つ者を、採用時の条件として公募を行い、平成27年度中において、9件の教員公募を行った。	A	A
④ (a)整備計画に基づき、女性教職員の就業環境改善のため、女性用の更衣室、休憩室及びトイレ等の整備を推進する。	④ (a) 整備計画に基づき、管理棟の女子更衣室・休憩室への改修の設計までを完了。予算が確保できなかったため工事は保留のまま。整備計画に基づき、女性教職員の就業環境改善のため、管理部及び一般教育棟女子トイレの一部改修を実施した。	A	A
④ (b)採用条件を女性限定とした教員公募を実施する。	④ (b) 平成27年度中に行った教員公募9件のうち、8件について女性限定公募を実施し、1件については女性優先公募を実施した結果、うち1件については、女性教員の採用に至った。	S	

平成27年度 年度計画	平成27年度 実績報告	自己評価	
<p>⑤ (a)高専機構の開催する各種研修会等へ適任者、参加希望者を積極的に派遣し、研修報告の学内周知を推進する。</p> <p>⑤ (b)各種啓発セミナー等の情報告知に努め、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が提供する各種研修等を積極的に活用する。さらに、全教職員が参加するFD・SD研修会を開催する。</p>	<p>⑤ (a) 高専機構の開催する各種研修会等の参加希望者を募り、積極的に派遣した。研修会終了後は研修報告、学内周知を推進している。公的研究費の不正防止に関するコンプライアンス研修では、研修終了後、理解度テストを実施し、参加者の習熟度を測った。 高専機構へ、平成28年度在外研究員として、ニューヨーク市立大学(高専機構協定締結校)へ、教員1名を派遣推薦し、高専機構から派遣教員として推薦を得た。</p> <p>⑤ (b)四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が提供する各種研修に積極的に職員を派遣した。 ・平成27年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ) ・平成27年度夏期FD・SDスキルアップ講座 遠隔配信講座 ループリック評価入門ーブレない・速い・楽チン成績評価のススメ 講義のための話し方入門 大人数講義法の基本 ・コーディネート力養成講座 ・第24/25回愛媛大学授業デザインワークショップ ・アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ</p> <p>9月に全教職員を対象としたFD・SD研修会を開催した。</p>	A	A
<p>⑥ 香川高専の名を高める顕著な功績が認められた教員や教員グループを校長が表彰し、国立高専教員顕彰に推薦する。</p>	<p>⑥ 高専教員顕彰の若手部門及び一般部門に、各1名ずつ優れた教員を推薦した。</p>	A	A
<p>⑦ 国際交流関係予算を重点事項に優先配分し、教員の国内外の大学等での研究・研修及び国際会議参加に対する旅費等の支援を行う。</p>	<p>⑦ 国際交流支援基金から、学生の国際交流行事への派遣、海外の協定校等への派遣、海外インターンシッププログラム参加に対する旅費の助成を行った。</p> <p>・学生の国際交流行事への派遣 ISTS2015、マラエ科大学(マレーシア)3名 IPGS2015、マラエ科大学(マレーシア)3名 ・海外の協定校等への派遣 NANO Scitech2016、マラエ科大学(マレーシア)3名 ・海外インターンシッププログラム参加に対する旅費の助成 ベトナム1名、タイ1名</p>	A	A
<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ①-1 (a)モデルコアカリキュラム(試案)に関する説明会、勉強会等を実施する。学校全体でモデルコアカリキュラム(試案)と現行シラバスの学習到達目標・内容を照合し、適合度を確認する。キーワードの対比を行い、到達度の確認を行う。</p> <p>①-1 (b)授業内容・方法改善のためのアクティブラーニング研修や到達度評価のためのループリック 評価研修等に参加する。</p> <p>①-1 (c)遠隔授業を実施する。</p>	<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ①-1 (a)平成30年度改組計画により、新しい教育課程表を作成中で、モデルコアカリキュラムに適合する授業内容を検討した。</p> <p>①-1 (b)12月のアクティブラーニングトレーナー教員研修会に参加した。JABEE-日本工学教育協会主催の学習・教育到達目標の総合的な達成度評価についてのワークショップに参加した。</p> <p>①-1 (c)専攻科の科目において、遠隔授業を実施した。</p>	A	A
<p>①-2 「高専学生情報統合システム」の説明会に参加し、システム導入に関する具体的方策を検討する。</p>	<p>①-2 導入に向けたデータ移行のため、教務システムの情報を取りまとめ、機構本部事務局 情報推進室へ高専学生情報統合システムの検証用データを提出した。</p>	A	A
<p>② (a)JABEE審査結果を有効に活用し、教育プログラムの整備を行うとともに、継続審査に向けて教育内容の充実・見直しを行い、教育の質の向上に努める。</p> <p>② (b)資格試験等の受験を推進し、資格取得状況を把握するとともに、受験者を支援するため在学中の取得資格を学修単位として認定する。</p>	<p>② (a)JABEE継続審査(電子情報工学コース)の結果での指摘事項に対して、今後、授業内容の改善を行い、教育の質の向上に努めた。</p> <p>② (b)学生用掲示板に受験案内ポスターを適宜掲示、TOEIC、無線従事者国家試験等を本校で実施するなど、学生の便宜を図った。資格取得が単位認定の対象となる資格の一覧を学生便覧に掲載し、年度末に学生の申請に基づき教務委員会で審議の上単位の認定を行った。</p>	A	A
<p>③ 交流活動取組情報を入手し、学生の大学や他機関提供の研修プログラム参加を推進する。</p>	<p>③ 弓削商船高専主催四国地区高専との連携・交流事業に伴う「特別講義」に22名参加した。また、日本原子力研究開発機構の実習や独立行政法人国立女性教育会館の女子中高生夏の学校や高知高専のスペースキャンプからの案内を学生に周知した。</p>	A	A
<p>④ 教育実践例報告会を全学レベルで開催して各学科の優れた取り組みを共有し、教育方法の改善を議論する。</p>	<p>④ 平成27年度教育実践事例報告会を実施し、大人数授業の取り組み等を共有し、教育方法の改善を議論した。</p>	A	A
<p>⑤ 機関別認証評価の平成28年度受審査準備へ向け、点検評価を行いつつ自己評価書作成を進める。</p>	<p>⑤ 平成28年度機関別認証評価受審査に向け、点検評価を行いつつ、自己評価書の作成及び資料の整理を進めた。</p>	A	A
<p>⑥ 香川高専独自の「スケジュールダイアリー」を配布し、就活指導の一貫としてインターンシップへの積極的な参加を促す。企業人や高専卒の社会人を招いてキャリア講座や業界勉強会を企画し、学生への啓発活動を行う。</p>	<p>⑥ 専攻科1年生と本科4年生に香川高専独自の「スケジュールダイアリー」を配布した。本年度のインターンシップには、専攻科生21名、本科生221名が参加した。企業の採用担当者や本校OBを招いて、キャリア講座や業界勉強会を実施した。</p>	A	A
<p>⑦ (a)企業人材を活用し、「企業技術者等活用プログラム」を引き続き実施する。</p> <p>⑦ (b)現役企業技術者を授業等に活用して、学生の技術開発能力を向上させる。</p>	<p>⑦ (a)「企業技術者等活用プログラム」は計画時間数を超えて実施することができた。 ・「企業技術者等活用プログラム」により授業への取り組みを行った。学生に対しては授業内で実践的な技術をフォローした。 「三豊市少年少女発明クラブサポート学生のアドバイス及び学生指導」「地域連携行事活動学生のアドバイス及び指導」「実験実習における英語コミュニケーション教育」を実施した。</p> <p>⑦ (b)新たに県補助金(大学等魅力づくり補助金)を獲得して、現役企業技術者を活用した授業をいっそう推進している。(全学科2回以上実施)</p>	A	A

平成27年度 年度計画	平成27年度 実績報告	自己評価	
⑦ (c)香川高専人材バンクを利用して、高専OBの人材活用を推進する。	⑦ (c) 人材バンクのOB技術者による授業内の講話や実践的な技術教育に各科で取組んだ。 電気情報工学科において、人材バンクから派遣いただいたOB指導により、電気情報工学科4年生に対するキャリア教育としてWBS(作業分解図)作成を実施した。そこでは、学生に将来の仕事を見つけるために現在何をしておくべきかを考えさせた。 通信ネットワーク工学科において、香川高専人材バンクを利用して、OBによる講演を行った。	A	A
⑦ (d)日本弁理士会四国支部との連携により知財教育事業を行う。	⑦ (d) 知財教育事業について今年度は、日本弁理士会の支援により、11/16、11/23の2回に分けて4学科の3年生に実施した。	A	
⑧ 長岡技術科学大学と連携して、実践的・戦略的技術者育成プログラム(技術者育成アドバンスコース)を実施する。	⑧ 長岡技術科学大学と連携して、実践的・戦略的技術者育成プログラム(技術者育成アドバンスコース)を実施した。Stage1の協働科目を本校で開講した。	A	A
⑨ (a)「創造性豊かな実践的技術者養成コース」を利用した授業、WebClassを利用した演習を実施する。また、開発提供されたICT活用教材を積極的に利用する。教員にe-Learningサーバの活用講習会等を行って、積極的な活用を促す。	⑨ (a)「創造性豊かな実践的技術者養成コース」を利用した授業を前期に実施した。また、WebClassを利用した演習を実施した。	A	
⑨ (b)新外部インターネット回線(SINET5)の調達に関し、機構と連絡を取りながら進めてゆく。	⑨ (b)新外部インターネット回線(SINET5)の調達をスケジュールどおり完了した。	S	A
⑨ (c)基盤センターに整備されたICT機器やシステムについて利用促進するためのプロモーションを行ってゆく。	⑨ (c)Office365講習会を、高松キャンパス 情報基盤センター 第一演習室において6月15日と6月25日の2回開催し、詫間キャンパス 情報基盤センター 第一演習室において6月24日と6月30日の2回開催した。	A	
(5)学生支援・生活支援等	(5)学生支援・生活支援等		
① (a)教職員対象に「メンタルヘルス」に関する講習会、学生対象に「自殺防止」に向けた講習会やアンケート(年2回)を実施する。	① (a) 詫間キャンパスにおいて、5月、全学生を対象に「こころと体の健康調査」を実施した。11月、1～3年生を対象に「Hyper-QU」、4年～専攻科生を対象に「心の元気度チェック」を実施した。12月(4年生対象)及び1月(2年生対象)に「自殺予防に関する講演会」を実施した。2月、教職員を対象に「学生対応に関する講習会」を実施した。 高松キャンパスにおいては、全学生対象に「こころと体の健康調査」を3回(4～5月、11月、12月)実施した。1～3年生対象「Hyper-QU」(7月)を実施した。1年生対象「自殺予防講演会」(12月)を実施した。1年生と2年生を対象に「デートDV防止講演会」(1年生12月、2年生6月)を実施した。教職員対象の「メンタルヘルス」に関する講習会は、本校FD・SD研修会(9月)において実施した。	S	S
① (b)AED講習会、二輪車の交通安全教室や携帯電話・ネット安全教室を開催する。	① (b)高松キャンパスにおいて、薬物乱用防止講演会5/20(2年生)、AED講習会(体育会系クラブ)6/25(木)、交通安全講話(2年生)7/15(水)、二輪車講習会9/30(水)(2・3年生)、体育会系リーダー研修会10/9(金)・10(土)、ネットリテラシー講演11/11(水)(1年生)、年金説明会12/4(金)(5年生)を実施した。	S	A
② 寄宿舎などの学生支援施設の実態調査とニーズ調査を実施し、その結果を踏まえて整備計画の見直しを行い、それに基づいた施設整備を推進する。	② 学生支援施設の実態調査及びニーズ調査は未実施。寄宿舎の受入定員が不足してきていることを受けて平成28年度に実施予定。	B	B
③ 高専機構や産業界から収集した各種奨学金に関する情報は、HPや香川高専だより、電子掲示や教室掲示を通して学生に迅速に周知する。	③ 香川高専だよりや教室掲示により迅速に周知した。	A	A
④ キャリアサポートセンターによる企業情報、進路情報などの提供体制や情報提供方法を見直し、どの学生もが簡単に情報入手できる仕組みを検討する。	④ 複数回の進路ガイダンスにおいて、学生へ企業情報・進路情報の公開方法を示して常に最新の情報を入手するよう心構えを説明した。また、複数回の進路調査や担任と本人・保護者の懇談会などで段階的に進路決定を促した。	A	A
(6)教育環境の整備・活用	(6)教育環境の整備・活用		
①-1 (a)環境・施設マネジメント委員会を中心として施設マネジメントを推進し、整備計画の見直しを図るとともにキャンパスマスタープランを今年度中に策定する。	①-1 (a) 環境・施設マネジメント委員会を開催し、また本部施設課との連絡調整を実施することにより、施設マネジメントを推進した。 施設整備計画は策定できているが、キャンパスマスタープランは平成28年度に策定予定。	B	
①-1 (b)整備計画に基づき老朽施設・設備の整備を実施する。	①-1 (b) 整備計画及び学内からの要求に基づき、老朽施設・設備の整備を予算の範囲内で実施。	S	A
①-1 (c)老朽施設・設備の整備に併せて、省エネ化の取り組みを推進する。	①-1 (c) 非構造部材耐震改修工事及び空調改修工事において、LED照明の設置及び省エネ空調設備への更新を行った。	S	
①-1 (d)エネルギー使用状況の調査を実施し、省エネ活動の啓蒙を行う。	①-1 (d) 環境報告書や学内メールを利用し、定期的にエネルギー使用量の報告を行うこと等により省エネ活動への啓蒙を図った。	S	
①-2 (a)既に完了している構造体の耐震化に関しては、耐震部材の点検を実施し耐震性能の保全に努める。	①-2 (a) 既に完了している構造体の耐震化に関して、耐震部材の点検を実施。	S	A
①-2 (b)非構造部材(屋内運動場の照明器具)の耐震改修については、設計・契約・監理を着実に進め、今年度中に完了させる。	①-2 (b) 非構造部材(屋内運動場の照明器具)の耐震改修については、平成27年10月に両キャンパスとも完了。	S	S
①-3 今年度中に学内のPCB廃棄物の処分を完了させる。	①-3 学内のPCB廃棄物の処分は、平成27年10月に両キャンパスとも完了した。	S	S

平成27年度 年度計画	平成27年度 実績報告	自己評価	
② 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会実施と受講を促す。	② 新入生及び新規採用者に「実験実習安全必携」を配付するとともに、全教職員を対象としたFD・SD研修会において、メンタルヘルスに関する研修を行った。衛生管理者の養成のため、免許取得講習受講者を募り、職員を受講させた。	A	A
③ 「男女共同参画推進会議」を開催し、女性教員にとって働きやすい職場環境の整備を推進するための方策を検討する。	③ 4月に男女共同参画推進会議を開催し、本校及び他校の男女共同参画の取組状況を共有し、本校として、女性教員比率の向上の推進、施設整備(女子トイレ改修)の推進など、女性教員にとって働きやすい職場環境の整備を推進するための方策を、引き続き実施していくことを検討した。	A	A
2 研究や社会連携に関する事項 ① (a)高専機構新技術説明会、全国高専テクノフォーラム、イノベーションジャパン等において研究成果を積極的に発信するとともに、人的交流を図る。首都圏開催イベント出展には、四国地区高専地域イノベーションセンター主導で取り組み、参加教員の知財シーズと企業ニーズのマッチングを図る。 ① (b)科学研究費補助金等外部資金獲得のためのガイダンスを実施し、応募可能な研究費プログラムや技術移転事業の紹介を的確に周知して積極的な申請を促進する。 ① (c)機構本部研究推進経費(共同研究プロジェクト)への応募を促し、外部資金獲得につなげる。	2 研究や社会連携に関する事項 ① (a) 研究や社会連携に関する成果発信等の取組み事項については何れも計画どおり実施している。また、四国地区高専地域イノベーションセンター主導の取組みについては中部地区のイベントに出展するなど取組んでいる。 ① (b) 平成28年度科学研究費助成事業の公募についての説明会を実施した。また学内のグループウェアで外部資金公募情報を周知し、メール等でも積極的な申請について要請を行った。 ① (c) 機構本部研究推進経費(共同研究プロジェクト)に9件応募したが採択はなかった。ただし全採択案件中2件に3名の教員が参画している。H28年度についても応募を推進している。	A	A
② (a)学会への論文投稿や発表など、研究成果を発表する各種機会を活用し、研究成果について広く社会に公表する。 ② (b)地域イノベーションセンター報の発行、教員シーズ集の充実を通じて情報発信を行う。 ② (c)教職員による企業見学会を実施し企業とのマッチングを推進するとともに、イブニングセミナーの開催、香川高等専門学校産業技術振興会と連携したシーズ発表会の開催により、企業技術者との交流を深め、企業からの技術相談を高専教員シーズに繋いで、共同研究プロジェクトへの展開を推進する。 ② (d)高専教員や近隣大学と連携した合同シーズ発表会を開催する。 ② (e)三豊市中小企業振興協議会主催の「みとよマーケット」で研究成果や技術シーズを発表する。ETWest2015で技術シーズを発表する。 ② (f)外部講師による特別講演会を開催し、広い視野の涵養に努める。	② (a)学会への論文投稿や発表など、研究成果を発表する各種機会を活用し、研究成果について広く社会に公表している。また、JSTリサーチマップと高専機構シーズ集の更新を促進した。 ② (b) 地域イノベーションセンター報については、経費節約の観点から、Webによる電子広報に発展的に移行し、さらに内容を充実させている。 ② (c) 教職員の企業見学会で教職員17名が会員企業2社を訪問して見学した。また、イブニングセミナーを8回実施した。香川高専産業技術振興会シーズ発表会で教員14名が発表した。 ② (d) 香川大学主催「第11回先端工学研究発表会」に出展、教員2名が発表した。 ② (e)「第4回みとよマーケット(主催:三豊市中小企業振興協議会)」に教員1名が、「ETWEST2015組込総合技術展関西(主催:(一社)組込みシステム技術協会)」に教員2名が出展し研究成果を発信した。 ② (f) 外部講師による特別講演を5回実施した。	A	A
③ (a)学生、教職員への知的財産教育を行い、事業化可能な知的財産取得を推進する。 ③ (b)学生向けおよび教職員向けの知的財産講習会や知財管理検定受験講習会等を行う。 ③ (c)学内発明コンテストを実施し、学生の知財意識の涵養をはかるとともに、学生による知財出願を支援する。	③ (a) 学生(3年生)向けに、日本弁理士会の協力により知財講演会を実施した。また、特許コンテストを通じた特許等の出願に取組んだ。さらに教職員の特許出願についても知財委員会において事業化を意識して取組んでいる。 ③ (b) 学生(3年生)を対象として日本弁理士会の協力により知財講演会を実施した。学生(5年生)を対象とした「知的財産の基礎編」「知的財産の応用編」の講演を実施した。 ③ (c) 発明コンテストを実施した。優秀な案件について、学生の実用新案権出願を2件支援した。	A	A
④ (a)香川高専HPやセンター報、技術シーズ集などの印刷物で研究成果を定期的に公開する。 ④ (b)香川高専HPに、みらい技術共同教育センター並びに地域イノベーションセンターの活動をより詳細に掲載する。	④ (a) 国立高専研究情報ポータルを利用して公開している技術シーズやJSTリサーチマップの更新を全教員に促した。 ④ (b) 香川高専HPに、みらい技術共同教育センター並びに地域イノベーションセンターの活動をより詳細に継続して掲載している。	A	A
⑤ (a)公開講座の情報発信・収集に、香川高専HP等の各種媒体を継続的に活用する。 ⑤ (b)小・中学校への出前授業や公開講座をより積極的に実施し、その取組事例の情報発信に努める。	⑤ (a) 公開講座や出前講座、学び直し講座などの情報発信・収集に、香川高専HPやICTオープンキャンパス始め、各種媒体を継続的に活用したほか、市町村の広報誌に掲載、図書館及びコミュニティセンター等へのチラシ配布等を行った。 ⑤ (b) 小・中学校へのロボット教室などの出前授業や公開講座を積極的に実施し、その取組の情報発信を行った	A	A

平成27年度 年度計画	平成27年度 実績報告	自己評価		
<p>⑤ (c)地域やコミュニティセンター等でのイベントに積極的に参加協力する。</p> <p>⑤ (d)県・市との連携による講座について、継続して充実を図る。</p> <p>⑤ (e)地元の組込み技術者を対象とした組込み技術者セミナーなどの企業技術者の学び直し講座を開催する。</p>	<p>⑤ (c) 地域やコミュニティセンター等でのイベントに積極的に参加協力し、小学校等におけるロボット教室や科学体験フェスタを行った。</p> <p>⑤ (d) 県・市や財団との連携による講座について、継続して実施し充実を図った。有限要素法解析、Android入門、材料疲労講座、原位置透水試験法などのセミナーを計7回開催した。 「はつらつ介護予防教室(高松市保健センター)」「徳島・香川5周年記念マルシェ(香川銀行、三豊市)」「みとよロボコン2015」「簡単英語による初歩のArduinoプログラミング体験講座」を各1回開催した。</p> <p>⑤ (e) 地元の組込み技術者を対象とした組込み技術者セミナーなどの企業技術者学び直し講座を開催した。組込み技術セミナー(基礎コース)を1回、組込み技術セミナー(リーダーコース)、「簡単英語による初歩のArduinoプログラミング体験講座」、有限要素法解析、Android入門、材料疲労講座、原位置透水試験法を各1回開催した。</p>	A	A	
<p>3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1 (a) ISATE、ISTSへの参加を促進する。また、協定校とともに国際セミナーや国際シンポジウムを開催し、相互に学生受入と教職員派遣を推進して、交流の活性化を図る。そのために、海外の大学等との学術交流協定の締結をさらに進める。また、学生交流等に必要となる協定の実施細則締結や更新、覚書取交を検討する。</p> <p>①-1 (b)教育の質の維持・向上を図りながら、教員能力開発・指導力強化のための在外派遣事業に取り組む。また、教員の研究シーズ集を整備し、機構協定校ならびに本校の協定校との研究マッチングを促進する。</p> <p>①-2 (a)日本学生支援機構(JASSO)等の奨学金制度へ積極的に申請し、本校との協定校との間で学生の短期派遣や短期受入を推進する。</p> <p>①-2 (b)受入れ拠点の拡大に努めて海外インターンシップへの参加やISATE、ISTSでの学生交流を支援する。</p> <p>①-2 (c) 本校と協定校との共催する国際シンポジウムを継続して実施する。これにより学生の海外派遣をさらに促進する。</p> <p>①-2 (d) 学生による国際交流体験報告会等の行事を継続する。トビタテ！留学JAPANなどの紹介により、学生の意識向上を図る。</p>	<p>3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1 (a) ・高専機構主催の国際会議への参加を全校に周知し、ISATE2016に教員2名、ISTS2016に学生4名が参加した。 ・平成27年9月に協定校のマラエ科大学と土木環境系分野の国際会議InCIEC2015を現地で共催し、本校教員の講演、学生(3名)の研究発表を行った。 ・平成28年2月に協定校のマラエ科大学と電子デバイス系分野の国際会議NANO SciTech2016を共催し、本校から教員1名、学生5名が参加した。 ・平成27年4月に協定校のラジャマンガラエ科大学タンヤブリ校(RMUTT、タイ)と学生交流に関する覚書を交わした。 ・平成27年12月にツウール大学(フランス)と学術交流協定(MOU)を締結した。具体の学生交流計画の検討に伴い、平成28年3月に学生交流に関する覚書(MOA)を締結した。</p> <p>①-1 (b)協定校との学生交流・教員交流の促進のため、教員の研究シーズ集の在り方を検討した。また、短期留学生向けの研究テーマ、将来的な共研テーマを専門分野ごとに教員から募り、香川高専グローバル・エンジニア・研修プログラム(GET Program)として取りまとめ、協定校に配布した。</p> <p>①-2 (a) ・平成27年4～5月に協定校のラジャマンガラエ科大学タンヤブリ校(RMUTT、タイ)から学生8名を受け入れ、ロボティクス短期研修プログラムを実施した。 ・JASSO奨学金(受入れ)は継続採択され、本校独自のグローバル・エンジニア・トレーニング・プログラム(GETプログラム)により協定校への学生派遣を実施した。4名の学生をが短期研究型派遣によりマラエ科大学の電子系研究所にて研修した。</p> <p>①-2 (b) ・高専機構主催のインターンシップに、夏季1名、春季1名、長期1名(3ヶ月)の学生が参加した。 ・ISATEに教員2名、ISTSに学生4名が参加した。</p> <p>①-2 (c) ・平成27年9月に協定校のマラエ科大学と国際会議InCIEC2015を共催し、学生3名が研究発表を行った。 ・平成28年3月に協定校のマラエ科大学と電子デバイス系分野の国際会議 NANO Science 2016を共催し、学生5名が研究発表を行った。</p> <p>①-2 (d) ・平成27年度官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム(高校生コース)本科2年生1名が参加した。 ・平成28年度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～(理系、複合・融合系人材コース)専攻科生1名が採択された。 ・「香川地域活性化グローバル人材育成プログラム」の地域協議会に参画し、平成27年4月に学生向け申請説明会を行った。 ・「学生による国際交流活動報告会」(両キャンパス同時開催)、海外英語研修報告会、「国際交流活動展示会(学生祭)」において、学生を対象する体験報告を開催した。</p>	S	S	A
<p>② (a) 協定校からの学生の短期受入に必要な環境整備に関する調査を行う。また、本校学生寮への受入れ検討を行う。</p> <p>② (b)国際交流センター等の情報を収集し、留学生への教育・支援・指導に関する更なる充実策を検討する。</p> <p>② (c)国際交流協定校からの留学生の受入を円滑に行い、かつ快適な居住環境を提供するため、必要に応じた寄宿舎整備を推進する。</p> <p>③ (a)留学生交流会と留学生見学旅行を実施するとともに、四国地区ならびに全国規模の文化交流事業への参加を支援する。</p>	<p>② (a) 平成27年5月の海外短期留学生の受入において、食堂等の寮施設を利用した。平成28年以降の短期受入における学生寮の利用について検討を依頼した。</p> <p>② (b)国際交流センター主催の国際交流室・国際交流センター長会議(平成27年7月)、スキルアップワークショップ(平成27年11月)にそれぞれ教員2名、3名を派遣した。実務的な問題に関わる情報収集を行った。</p> <p>② (c) 留学生の受入に伴う寄宿舎整備については未実施。</p> <p>② (d) 留学生の受入のための寄宿舎整備については未実施であるが、両キャンパスの事情を踏まえ、恒常的な宿泊可能施設の確保について、副校長や寮務主事、関係部署などと検討した。その結果、条件付きではあるが、詫間キャンパスの寮室の一部をその用途に利用することの許可を得ることができた。</p> <p>③ (a)留学生交流会を各キャンパスで1回、計2回開催した。四国地区留学生交流会や、香川地域の留学生交流行事に留学生が参加した。</p>	A	A	S

平成27年度 年度計画	平成27年度 実績報告	自己評価	
③ (b)協定校からの短期受入を推進するとともに協定校への短期派遣を企画する。また、学生支援機構 (JASSO)の支援申請を推進する。	③ (b) ・平成28年2～3月の協定校への研究型短期派遣 (GETプログラム)において、学生4名がJASSOの支援 (奨学金)を受けた。 ・平成28年度JASSO短期派遣に採択された。短期受入は不採択であった。	A	S
4 管理運営に関する事項	4 管理運営に関する事項		
① (b)両キャンパス一体となったスケールメリットを生かし、予算編成において、戦略的かつ中長期の事業計画に基づく序列配分を行う。	① (b) 校長裁量経費を財源とした学内競争的資金を設け、教育、研究プロジェクト支援のためのインセンティブ経費の配分など、戦略的な予算の序列配分を行った。	A	
③ 平成28年度受審する機関別認証評価の自己評価書作成の過程を通じて、管理業務の集約化やアウトソーシング等の活用により効率化が図られる業務の可能性について検討する。	③ 平成28年度受審する機関別認証評価の自己評価書作成の過程を通じて、業務効率化の可能性について現状確認した。	A	A
④-1 (a)コンプライアンス意識向上を目指し、機構本部が実施する全国の学校を対象とした階層別研修や各種説明会に参加するとともに、校内研修会等においてコンプライアンス意識向上に関するセルフチェックを実施する。	④-1 (a) 機構本部が実施する階層別研修に対象者を派遣するとともに全教職員を対象にセルフチェックを実施し、コンプライアンスの意識向上を図った。	A	
④-1 (b)整備した納品検収体制の実効性を検証する。	④-1 (b) 検収者の個人印を押印し、物品の検収が確実に実行されている。役務提供等についても成果物確認や写真添付等により確認した。	A	A
④-1 (c)会計事務担当者の規範意識向上、スキルアップのための研修を実施する。	④-1 (c) 会計事務担当者への会計規則等研修会を2月に実施し、職員の規範意識向上、スキルアップを図った。	A	
④-2 (a)階層別研修等に積極的に教職員を派遣し、全学に向けてコンプライアンス意識を浸透させる措置を講ずる。	④-2 (a) FD・SD研修会で、公的研究費の不正防止に関するコンプライアンス研修を実施し、公認会計士による講演の受講、理解度テストを実施した。	A	
④-2 (b)危機管理に対応するための緊急連絡網の更新を遅滞なく行い、勤務時間外における地震発生時の体制を定期的に周知する。	④-2 (b) 平成27年度当初に、勤務時間外における地震発生時の体制を学内周知した。	A	A
④-2 (c)健康管理への意識向上のため、外部講師による健康に関する講演会を実施する。	④-2 (c) 9月に、産業医による健康講話を実施し、生活習慣病の予防について、意識の向上を図った。	A	
⑤ 公的研究費に関する内部監査マニュアルに基づき内部監査を実施し、監査結果については、情報共有し、効率的・効果的かつ多角的な監査が可能となるよう、監査項目の見直し等について検討する。	⑤ 機構本部作成「公的研究費に関する内部監査マニュアル」に基づき、キャンパス間相互会計内部監査を2月に実施し、規則に則った会計事務処理の確認、また、運用上におけるキャンパス間での整合性を確認した。	A	A
⑥ 「研究機関公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「高専機構公的研究費不正防止計画」に基づき、公的研究費等の不適正経理を防止する。	⑥ 公的研究費等の不正使用の再発防止策を徹底するため、年度当初及び年度途中採用者に新任教職員を対象とした、研究費等不正使用防止に関する研修会を実施した。また、9月には全教職員を対象とした、公的研究費の適正な運営・管理についての研修会を実施し、研究費等不正使用防止対策の取り組みを行った。	A	A
⑦ 事務職員や技術職員の能力の向上を図るため、必要な研修会への参加を推進するとともに、成果主義によるインセンティブ付与を検討する。	⑦ 事務職員や技術職員の能力の向上を図るため、高専機構等主催の研修会等へ参加させた。高専機構職員表彰に優秀と認められた技術職員を推薦した結果、理事長賞を受賞したこと、技術職員による科学研究費補助金の採択状況について、昇給及び賞与における成績決定の判断材料とした。	A	A
⑧ 他機関人事責任者との連絡会を活用し、事務職員及び技術職員についての人事交流計画・復帰後の効果的配置を策定する。	⑧ 四国地区人事担当課長連絡会、近隣大学との打ち合わせ等を通じ、将来を見据えた事務職員及び技術職員についての人事交流計画・復帰後の効果的配置を策定し、平成28年度も、引き続き、香川大学との間で人事交流を実施することを決定した。	A	A
⑨ (a)情報セキュリティ対策のため、情報セキュリティ委員会による実施手順策定を計画的に進める。	⑨ (a) 平成27年12月10日付けで、本校の情報セキュリティインシデント対応手順を改正した。	A	
⑨ (b)トップセミナー等の研修情報を全学啓発に利用する。	⑨ (b) 情報系の教育・研修 (セキュリティ含む)を実施した。 ①管理職向け 『情報セキュリティトップセミナー』 対象:校長、副校長、学科長、情報センター長、事務部長、課長等 ②全教職員向け 『情報セキュリティ教育eラーニング』 ③実務担当者向け 『IT人材育成研修会』(ハンズオン) 『情報担当者研修会』(統一ネットワーク、外部講演、Office365実習等)	A	A
⑩ (a)機構の示す成果指標に基づき、全学委員会等において、所掌事項における年度計画の策定や事業実績の分析評価を検討する。	⑩ (a) 平成27年度新たに設置した企画評価室が、年度計画の策定及び実績報告書の取りまとめと計画・評価に係る情報の収集、調査、分析を行った。	A	
⑩ (b)機構の示す成果指標に基づき、各学科・室・センター・施設等の特性に応じた具体的な取り組みを検討する。	⑩ (b) 平成27年度新たに設置した企画評価室が、評価項目及び評価基準を定めて香川高等専門学校自己点検評価を行った。自己点検評価書を取り纏めた後は、評価・分析を行い、平成27年度外部評価委員会資料を作成した。	A	A
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置		
(a) 一般管理費縮減のため、契約の競争性を高め経費削減を図るとともに、ファイル等既存物品の再利用など、消耗品のコスト削減を実施する。	(a) 一般管理費縮減のため、印刷室へコピー用紙削減ポスター (白黒・両面印刷への協力)掲示を実施した。また、ファイル等既存物品の再利用を積極的に実施した結果、管理運営費の事務用品購入金額が前年度に比べて約136千円削減できた。	A	
		A	A

平成27年度 年度計画	平成27年度 実績報告	自己評価		
(b) 契約にあたっては、真にやむを得ないものを除き、原則、一般競争入札等により実施するとともに、契約条件等の見直しを行うなど、競争性の確保に努める。	(b) 契約に当たっては、原則、一般競争入札等によるものとし、競争性・透明性の確保を図った。これらの実効性について、キャンパス間相互会計内部監査を2月に実施し、確認した。	A		
Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む。), 収支計画及び資金計画 外部資金獲得のため、校長のリーダーシップの下、校長裁量経費を学内競争的資金としてインセンティブに利用し、効果的かつ戦略的な経費配分を実施する。	Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む。), 収支計画及び資金計画 校長のリーダーシップの下、外部の競争的資金(科学研究費補助金)の採択率の向上を図るため、校長裁量経費を学内競争的資金とするインセンティブ経費として有効活用した。この結果、教員1人当たりの科研費(代表者)採択数は0.20件となり、昨年度(0.16件)を上回った。	A	A	A
Ⅳ 短期借入金の限度額				
Ⅴ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 土地の譲渡に向けた諸手続を、予算を鑑みながら実施する。	Ⅴ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 中期計画で定めた、勅使町団地の一部土地(約5,606㎡)の譲渡等に向けた手続を進めており、当該土地に隣接する土地所有者との境界確認及び境界確定作業、分筆登記まで完了した。今後、機構本部の指示のもと処分方法を決定し、譲渡等に向けた諸手続を進める。	A	A	A
Ⅵ 剰余金の使途				
Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 (a) 整備計画に基づき老朽施設・設備の整備を実施する。 (b) 老朽施設・設備の整備に併せて、省エネ化の取り組みを推進する。 (c) 整備計画鳥瞰図や施設白書により、本部施設課と情報を共有し施設マネジメントの充実を図る。 (d) 環境報告書を作成し公表する。	Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 (a) 整備計画及び学内からの要求に基づき、老朽施設・設備の整備を予算の範囲内で実施。 (b) 非構造部材耐震改修工事及び空調改修工事において、LED照明の設置及び省エネ空調設備への更新を行った。 (c) 整備計画鳥瞰図や施設白書により、本部施設課と情報を共有し施設マネジメントの充実を図った。 (d) 環境報告書2015を作成し、HPIにて公表。	S		
		S	S	S
		S		
2 人事に関する計画 (1)方針 教職員の人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施又は他機関研修に派遣支援することで資質の向上を図る。 (2)人員に関する計画 FDやSD等による常勤職員の職務能力向上に努めるとともに、事務組織の効率化を図り、将来構想に応じた教職員配置をシミュレートする。	2 人事に関する計画 (1)方針 平成28年度からの高専・技科大間教員交流制度に1名の教員を派遣(1年間)、同居支援プログラムによる人事交流に3名の教員を派遣(5年間)、国立研究開発法人物質・材料研究機構に1名の教員を派遣(1年間)することを決定し、長期的な視点で、多様な人材の育成を図った。 (2)人員に関する計画 FD・SD研修を開催し、常勤職員の職務能力の向上に努めた。将来の定員を想定した教員配置計画の策定、事務職員にあつては職員人材育成方針を制定するなど人材育成も見据えた人事異動を計画し、実施した。	A	A	A